

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070600307		
法人名	有限会社 深英会		
事業所名	グループホーム サンフラワー 4ユニット		
所在地	群馬県沼田市新町452-1		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成28年10月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>安心、安全を前提とし、利用者様一人ひとりが笑顔で自立した生活が送れる様、健康寿命や地域一体化を目指し、日々、ケアに取り組んでいます。会社理念をスタッフ一人ひとりが分解し、理解するとともに、日々のケアサービスに活用し、尊厳の保持や自己実現に目を向け、利用者様本意の心で日々ケアの向上に努めています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p></p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼にて参加スタッフ全員で運営理念の復唱を行っている。各ユニット内においても、月2回のカンファレンスの際にケアに活用している。又、定期勉強会にも活用。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	草刈りや、イベント等の地域行事に参加。事業所側のイベント(BBQ、ハロウィンく焼き芋会、クリスマス会等)を開き、参加して頂いている。又、子供110番でもある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や、定期的な連絡、訪問等を活用している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長、民生委員、居宅ケアマネ、市の方、家族の方に参加をしていただき、日頃の悩みや、その時のテーマに沿った話等を、共有している。又、自発的改善案箱があり、活用している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期連絡や、あいさつ、会議やイベント等で細目に交流をさせて頂いている。研修等の相談もさせて頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	非常口の施錠は事故の無い様安全に十分に配慮し、解放する時間を決めている。居室には鍵は付けず、各ユニットにもマニュアルを常備。定期勉強会のテーマにしたり、職員規約に乗せ、朝礼で読み上げたり等、全職員が理解出来る様努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアル常備や、勉強会、職員規約の活用等、全職員が把握、理解出来る様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強会への参加。本人、家族が話し合えるような関係作りや、場を設けられるよう努めている。又、インテークの段階でも工夫している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	インテーク時、事業所、本人、家族との話し合いを行い、把握に努めている。又、契約の際、十分に説明が行われる様書類等を用意し同意を得ている。不安やクレームに対しても、早急な対応が出来る様努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や改善箱を設置し活用している。書面には必ず、役職者又は社長が目を通し、今後の課題として、会議を設け検討している。ケアによる細かい情報も家族に相談し意見を伺えるよう努めている。又アンケートも使用している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	自発的改善案箱の設置や、各ユニット会議への参加。自発的改善案は必ず代表者が目を通す。代表者へも直接話し合える場を用意出来る様配慮している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自発的改善案箱の作成。個々が、仕事を全う出来る様配慮している。給与面の見直しを行う等、意欲向上を促す。又、残業を禁止としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の日程の組み立て。職員の力量に応じたの勉強会や指導方法等、個々に把握出来る様努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に、あいさつに行かせたり、研修会への参加や交流会への参加を促したりと交流の場に参加出来る様している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常日頃、利用者様のニーズや要望に対し、「実現」に向け、スタッフ、利用者様で共に考えて、ケアの見直しを行う事により、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時、ケアの結果や課題等m相談している。本人、家族での話し合いを十分に行って頂きケアに活かせる様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテーク時の情報や、日頃のアセスメント、家族との情報共有により、利用者様のストレスや不安等を早期に気付ける様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃のコミュニケーションや、アセスメント等からADLを見極め、QOLの向上に努めている。日華や役割等を担っていただき共同生活の場である事を意識し支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や受診の際は、相談している。イベント等を定期的に参加して頂いている。又、会議等の場に参加して頂ける様に努め関係作り力を入れている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の面会、電話や手紙等、本人の訴えに合わせ支援を行っている。又、面会時に外出希望等があった場合、安全に十分に配慮し、外出出来る様、支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の過ごし方や、他者との関わり方等から、自席の決定やレク等の時の参加方法等配慮している。又、日頃から、談話等にスタッフが介入する等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	日頃から相談がしやすい関係作りに努めており、退居の際、連絡先を控えさせて頂いている。退居後も、報告を頂いたり結果も出ており、今後も環境作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の、15分会話を活用したり、日頃から訴えや意見、要望に耳を傾け、「どうすれば実現出来るのか」という視点で考え、可能な限り応じられる様、日々考察している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク時の情報や、アセスメント、基本情報等の書類を作成し、活用。日々の状態を記録に残し、ケアの見直しに活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録やケース記録を残し、変化に早急に気付ける様努めている。機能訓練、レク等を取り入れ、個々の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議を毎月行っており、日頃の様子や情報を基に声プランを作成している。又、家族や本人の意見をしっかり取り入れられるよう、アンケートの活用や話し合いの場を設けられる様努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録やケース記録の活用。特変や変化があった場合にはしっかり記録に残し、その場で話し合い、アプローチの見直し等、早急に対応出来る様努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ユニット合同のレクやイベントを行ったり、仲の良い方の居るユニットへ気軽に行けたり等の工夫を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	園芸場に畑を用意し、花以外にも野菜作り、それを収穫し食事に使用。利用者様に協力して頂いている。又、地域の作業にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	インテーク時の情報を活用し、継続して受診している。状態変化や希望等に合わせ、本人、Dr、家族と話し合い専門医を受診している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機として、協定書をもらっている。他の病院においても、日々の変化等、定期受診の他に相談したりと情報共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協定書。定期的なあいさつや連絡等、日々、関係作りに努めている。入院された場合には、こまめな面会や、連絡等で情報の共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	相談される段階で、ご家族に相談し、Drを交え、補任と話し合える場を用意出来る様努めている。本人にも十分配慮し、インテーク時に聞ける様努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行われている訓練の参加や、研修、勉強会を活用し知識の強化や応用力を身に付けられる様取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル作成。訓練にも進行表を作成し、全スタッフがしっかり取り組めるよう努めている。区長や民生委員等の協力を得て、災害時の対応を強化出来る様、日々取り組んでいる。又、防火管理を増やしたり等もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	強要や、行動を制限するような言動に常に気を付ける事を、スタッフ全員で取り組んでいる。慣習や勉強会の活用で強化に取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	オープンクエスチョンやクローズクエスチョンを活用し出来る限り、本人が自己決定できるような支援に努めている。又、チームアプローチを見直す当も行っており、本人のサインや変化を早期に発見出来る様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩、ドライブやイベント等、本人の訴えに添える様努めている。個の時間も大切にしており、個別対応にも力を入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出やイベント時、本人に合わせ、支度を支援している。又、行きつけの美容院等も継続して利用できるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みに合わせた味付けが出来る様にしている。野菜作りも活用。個に合わせた配膳や配茶、味見や盛り付け等を取り入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や、補任の摂り方、ペースに合わせて主食と副食の割合を調整したり、個に合わせた配茶等を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で行う方や、こたらが支援を行う方等、個のADLに合わせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録の活用。データを元に、情報を共有しチームで取り組んでいる。オムツ使用の方でも、便意等に合わせ、トイレ使用を本人と話し、支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録の活用。ミルクやヨーグルト、ヤクルトの使用はもちろん、利用者様に合わせ、体操や、運動を取り入れ、自然排泄につながる様努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の訴えや希望に合わせて支援している。全身良く、シャワー浴、足浴、清拭、ADLや希望、体調等に合わせ行っている。又、声掛け等も行い入浴を促している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室に消灯時間を作らず、個のペースに合わせている。日中は体調の状態や訴えに合わせて、時間にとられず、ペースに合わせている。又、昼夜逆転防止の方には、定期的な訪室や声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	既往歴や薬の情報書等をスタッフが常時確認出来る様にしている。又、受診記録や経過記録等の記録の作成や活用も行い把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	TVや新聞、タバコやお酒等々、安全に十分配慮し、個々が楽しめる様努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅や友人宅、公共施設等にも家族の協力をいただきながら、出来る限り添える様支援を行っている。又、外泊も可能としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持希望のある方には安全に十分配慮し、所持して頂いている。事務管理の方にも外出や訪問販売等の際、声掛けを行い自己決定を促す等の支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に添い、支援している。毎月家族に送っている「おたより」を一緒に作成したり、やり取りが出来る様支援している。又、希望の方には、携帯電話の所持も可能としている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々の温度や湿度の調整はもちろん、季節に合わせた、飾り付け等を行っている。又、週1回の強化清掃と月に1回の大掃除を取り入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファースペースを設け、自席以外でも過ごせるようにしている。コミュニケーションに活用して頂いたり独りで過ごして頂いたり活用して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室の為、本人やご家族の希望を受け入れている。自宅の物はもちろん、個に合わせてTVやマンガ、冷蔵庫等も取り入れている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや案内板、各ユニット毎回スタッフ配置等で、本人が自立して生活できる様努めている。		